

2 月度低山はいかい「玉川上水第 2 回」実施報告

実施日: 2 月 27 日(水)

概要: 玉川上水緑道を玉川上水駅前から小金井橋へと歩く

参加者: (主幹事)酒井紀章以下 18 名

報告者: 飯塚義則

本文: 羽村堰から玉川上水駅前までの第 1 回に続き、玉川上水駅前から小金井橋まで、玉川上水緑道を歩いた。所要時間は昼食時間の約 30 分を含め、4 時間強で武蔵野の自然が良く残る約 14 キロメートルの区間であった。

玉川上水は、ご存じのように、拝島駅付近で立川崖線を、玉川上水駅付近で国分寺崖線を越え、武蔵野台地上の一番高い位置の分水界上に開鑿されている。そのため、地表を関東ローム層が覆いその下層が武蔵野礫層という保水能力に乏しい武蔵野台地の各地に、農業用水と飲料水の供給を可能にした。江戸への生活用水の供給に加え、上水の通水後は多くの新田開墾が行われ、江戸期の武蔵野台地における農業生産力の向上に大いに貢献した。玉川上水緑道には、そのことを史実として語る「百石橋」や「久右衛門橋」などの説明板が立ち、また当時の新田名などが町名として残り、往時の武蔵野台地における人々の生活の歴史を知ることができて興味深い。

玉川上水駅前を左に折れて、クヌギやコナラ、イヌシデ、ケヤキ、エノキなどの樹木で構成される武蔵野の森を象徴する玉川上水緑道に入る。5分ほど歩くと「小平監視所」で、現在、羽村で取水された多摩川の水はここで全て村山浄水場に送水され、下流に流れることはない。すぐ下流に上水小橋があり、監視所の水門から、昭島の再生水処理センターで浄化された再生水が玉川上水と野火止用水に流れ込んでいる。これは、昭和 61 年来行われていて、昭和 40 年の淀橋浄水場の廃止以来途絶えていた玉川上水への通水の復活であった。下流を望むと、武蔵野の森が素掘りのままの玉川上水を覆い、美しい自然景観を呈していた。往時の玉川上水の水量は、明治初期僅かな間の「通船」の話もあるくらいだから、相当の量であったと推測され、現在とは全く異なる姿であった。

参加者の皆さんの玉川上水に纏わるいろいろな話を聞き、またそこに生育する植物や野鳥の観察をしたり、上水北側を並行して流れる新堀用水の胎内掘跡を見学したりしながら進むと、昼食の場所、小平中央公園に到着した。途中、未だ実を残すゴズイやマユミ、花芽を膨らますコブシや早々に開花したウグイスカグラなどを眼にし、季節の移ろいの真っ直中にあることを実感した。

昼食後は、1時間余を要して、今日の目的地、小金井橋に到着し、その後、「名勝小金井桜の碑」と近くの海岸寺を訪れた。この辺りの玉川上水の土手は、ヤマザクラの並木でその名所であったが、樹木の老齢化と五日市街道の交通量の増加などから衰弱が進み、その保全に意が注がれている。海岸寺は、この地での創建はそう古くはないが、美しい四脚門を持ち、境内には見事なアカマツの古木がある立派な寺であった。折しも、シナマンサクとサンシュユが花をつけ、早春の雰囲気は境内に漂っていた。海岸寺境内で解散。その後、明治 16 年の明治天皇の「行幸松と行幸松の碑」を訪れ、武蔵小金井駅前「振り返り」を行った。



小平監視所下、多摩川上流下水処理水の供給場所



清流復活事業による多摩川上流下水処理水の流れ



小平市こもれびの足湯を見学



ウグイスカグラの開花



往時の原形を留める玉川上水



茜屋橋付近を通過